

令和6年度学校経営報告

八王子市立第六中学校

校長 大熊 一正

I 今年度の具体的な取組に対する自己評価

「知」 学力向上 思考力・判断力・表現力の育成・・・「確かな学力の向上」

1 すべての生徒が『わかる・できる・楽しい』ことを目指す学習活動を行う。⇨「六中 授業スタンダード」

①「六中のすべての生徒」が安心して学べる環境をつくる。

◇教室の環境整備については、各教室ともに配慮した環境を概ね整えることができたが、継続して取り組むことが大切である。

（参考指標）生徒学校評価：学級は落ち着いて学習できる雰囲気である。肯定：87.4%

②「六中のすべての生徒」にとって学びの本来の楽しさが実感できる授業を行う。

・生徒が活動したり、表現したりする「アウトプット」の時間が半分以上となるように授業を構成する。

◇授業におけるアウトプットの時間を意識した学習活動が多く、多くの時間で行われており、生徒の表現活動を重視した授業が行われている。

◆一方で分かりやすい授業が行われているかの指標は若干低下した。表現活動に必要な基礎・基本事項の習得や、適切なインプットへの配慮をより丁寧に行う。

◆学校が何を大事に授業を展開しているかについてさらに保護者への説明と理解を図る。

（参考指標）生徒学校評価：分かりやすい授業が行われている。肯定：85.8%

保護者学校評価：分かりやすい授業が行われている。肯定：59.5%

③「六中のすべての生徒」に寄り添い、特性に応じた合理的配慮を行う。

・プリントのフォントをUD デジタル教科書体に統一する。

◇プリントの書体を統一することができた。

・様々な特性に応じた、合理的な配慮のあり方を保護者、本人と確認し、学習活動に生かす。

（ルビふり、視覚的提示、端末の活用等）

◇今年度は、外国からの転入に対応し、ポケトークや携帯等の翻訳機能を活用することも行った。

・一人ひとりの特性の把握や手立ての検討には、諸機関との連携を図るとともに、保護者・本人の理解を得て進める。

◇特別支援教室「フレンズ」や別室指導の利用等、特性に応じて対応を行った。

◇八王子特別支援学校のセンター機能を利用した相談活動を始めて実施することができた。

◆二次障がいと思われるパニック等対応しなくてはならない状況が発生した。外部機関との連携は必ずしもスムーズではなく、特に医療、療育との連携には時間を要した。

2 全ての教科で、記録、要約、レポート、説明、論述など、方法を工夫して文章を書かせて、考えを「まとめる・広げる・深める」力を育成する。

◇生徒が考えて記述する場面を作ることができた。特に総合的な学習の発表活動では、工夫された発表を行うことができた。

（参考指標）国学力調査：各教科で学んだことを生かして、自分の考えをまとめる活動を行っていたか。肯定：84.8%

3 GIGA スクール構想を踏まえた教育活動等の実施

①端末を原則持ち帰り、各教科において家庭での学習活動や補習に活用する。

◇端末を使って、調べ学習や英語のスピーキングの練習、ミライシードのドリル学習に取り組む

ことができた。

◆保護者からは、端末の持ち帰りについてご意見をいただいた。家庭で学習とは関係のない動画等を見ている。端末が重く充電だけに持って帰るのであれば意味がない。等の意見をいただいている。

→あらためて、端末が八王子市から貸し出されているものであり、学習のために使うものであるという基本的な使い方を徹底する。

→端末を有効に活用していくことは、将来の社会において必要な力であることを伝え、生徒・保護者の理解を図る。

(参考指標) 国学力調査：ICT 機器を活用して、自分のペースで理解しながら学習を進めることができる。肯定：88.1%

②各教科の授業において効果的に端末を活用した実践を行う。※年度末において、半分以上の授業で短時間でも活用することを目標とする。

◇ほとんどの教科で何らかの形で端末を活用した授業が行われている。

◆端末が4年目を経過し、故障が多く出てきている。使いたいときに使えないことがある。

(参考指標) 国学力調査：授業でICT 機器をどの程度使用したか。肯定：95.6%

【国平均と比較すると30%以上高い】

③ICT を活用した校内研修を年間3回以上、実施する。

◇今年度は、自動採点システム「百花繚乱」の導入や教員用端末の更新、ジャムボード等の意見をまとめるためのソフトの活用について、研修を行うことができた。

◆授業実践への生かし方等については、先生方の日常的な実践を共有するまでにはできなかった。

4 生徒の自主的な学びを支援するため、「自主学習ノート」の取組を行う。

◇各学年で取り組んだ。概ね50%の生徒が何らかの形で取組を行うことができた。

「徳」 いじめの防止 思いやりの心もち、集団生活の充実に努める生徒の育成・・・豊かな人間性の育成

1 学校の教育活動全体を通じて行う人権尊重教育・道徳教育や、適時実施する個別の面談等日常的な教師と生徒との触れ合いを通して、よりよく生きるための基盤となる道徳的判断力・心情・実践意欲と態度を養う。

◇特別の教科道徳については、学習指導要領に定められた22項目をすべて実施した。

◇5月11日(土)に道徳授業地区公開講座を実施し、道徳科の授業を保護者に参観、協議を行うことができた。

2 いじめ対策委員会を核とした「いじめを許さない学校づくり」の推進

いじめ防止基本方針に基づく、いじめの未然防止・早期発見・早期対応・早期解消の徹底

→道徳教育・人権教育等を通した生徒たち自身による「いじめを許さない意思」と「いじめをなくす行動力」の醸成

→学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめ対策委員会を中心とした組織的な取り組みの推進

◆重大事態に相当するようないじめの案件もあり、保護者からも厳しい意見をいただいた。いじめへの対応については、丁寧に対応するとともに、進捗状況を確認しながら組織的に対応する。

◇毎週月曜日のいじめ対策委員会、毎月のいじめアンケートについて実施することができた。また、継続中のいじめ案件について状況を委員で確認することができた。

◇いじめ防止のための弁護士による講演会を4月30日(月)に実施した。

◆深く考えることなく接する中で、いじめの案件が生じている事例が多くみられる。中学生という多感な時期になって、友人関係の変化からいじめへとつながることもあり、いじめ防止という観点からも、適切な友人との距離間やコミュニケーションの仕方を指導する。

(参考指標) 学校評価(保護者)：学校はいじめに適切に対処し、いじめのない学校づくりに取り

組んでいる。肯定：70.3%

学校評価（生徒）：学校はいじめに適切に対処し、生徒会など自分たちでいじめのない学校づくりに取り組んでいる。肯定：79.9%

※いずれも、昨年度は約90%の肯定的意見であった。

3 学校として一貫性のある指導・・・『学校の指導に従っている生徒や指導に従おうとしている生徒がやる気を失わない指導』

◇学校として、生徒指導提要の改訂に伴い、生徒の意見を取り入れながら校則の改訂に取り組んだ。
◆衣替えを廃止し、夏服と冬服の切り替えを生徒自身の判断にゆだねたが、いつまでも夏服で登校する生徒がいるなど、課題がみられた。今後の検討事項である。

（参考指標）学校評価（保護者）学校は規範意識を高める指導に取り組んでいる。肯定：85.8%

学校評価（生徒）学校は規範意識を高める指導に取り組んでいる。肯定：89.0%

4 生徒理解及び生徒に寄り添った指導を踏まえ、生徒の自主的・自律的な活動を展開する。

◇生徒会を中心にした生徒朝会の企画や各委員会での取組を進めることができた。

◇宿泊行事や校外学習での班行動等の活動を通じて、自主性やリーダー性の育成に取り組んだ。

（参考指標）学校評価（保護者）学校は、学級や学年、生徒会活動などで生徒の自主性を育てている。肯定：81.8%

学校評価（生徒）学校は、学級や学年、生徒会活動などで積極的に活動している。

肯定：90.9%

「体」 体力向上 日常的に適切な体育・健康に関する活動を実践する生徒の育成

1 学校の教育活動全体を通じて行う体育・健康に関する指導を通して、自ら進んで運動に親しむとともに、積極的に健康な生活を実践できる資質・能力を育成する。

◇体育大会や球技大会を通じて、身体を動かすことに親しむとともに、団体競技を通じて協力することの大切さを指導することができた。

◇健康診断における指標においてどれも高い数値を示し、特に虫歯の罹患率が極めて低い状態が続いている。

（参考指標）虫歯の未処置数が全校で4本

2 給食を通して、バランスよく食事をするものの大切さを指導するとともに、将来にわたって心身の健康を維持できる資質・能力を育成する。

◇給食においては、給食センターの定期的な訪問を受け、食育指導を実施することができた。

「責」 社会性の形成 集団の中での自己の役割と責任を自覚し自ら進んで行動する生徒の育成

1 日常の学校生活や学級活動において、継続して取り組むことの重要性を自覚させ、日々の生徒の活動の中で変化や成長を把握しながら、社会性の育成を図る。

・学校での当番活動や班活動、係・委員会活動において、自らの役割を果たすことの大切さを指導し、リーダー性の育成を図る。

・生徒会活動において、生徒自ら主体的に学校生活をより良くするための話し合いや活動を行い、前向きに話し合うための方法を身に付け、仲間と協働できる資質・能力を育成する。

・校外活動や、宿泊行事、総合的な学習の時間等における取組を通じて、班活動や小集団での活動を行い、グループ活動の方法や話し合いのしかた、班行動の方法を学ぶ。

◇各学級での係活動や生徒会を中心にした委員会活動に年間を通じて取り組むことができた。

◆週時程の中で生徒会活動の時間を確保するのに苦労した。来年度はさらに週27コマでの運用となるため、さらに時間の確保に工夫していく。

2 様々な地域活動への参加を促し、地域で貢献できる生徒を育成する。また、地域の中学生としてのあるべき姿や期待される姿を指導し、社会貢献への意識を高める。

◇今年度も地域交流会を実施し、生徒と地域の方とが直接交流できる機会を作った。

◇地域総合防災訓練、青少対クリーン作戦、地域運動会や地域祭への参加等、中学生が地域の活動に参加する機会をさらに進めることができた。

(参考指標) 国学力調査：人の役に立つ人間になりたいですか。肯定：98.5%

【うち積極的にになりたいと回答：80.4%】

2 特色ある教育活動への取組と自己評価

(1) 保護者・地域との連携

①地域行事の機会をとらえ、生徒会等などによる貢献活動を推進する。

◇地域交流会、青少対クリーン作戦への参加を行うことができた。

◇地域運動会や納涼祭への参加を個々の生徒や部活動単位で行うことができた。

②月曜日の放課後に「マンデイ」活動を行い、地域の方との連携で学習活動の見守りと、学習につまづいている生徒への支援を行う。

◇マンデイ活動を、サポートクラスとチャレンジクラスとに分けて、個別支援の必要な生徒への地域の方からの支援を受けやすく変更できた。

◆チャレンジクラスでは、部活動によって学習への姿勢に違いがみられた。

③保護者・地域との信頼関係の醸成を図る。

◇学校運営協議会を年間8回に加え、修学旅行、移動教室のプレゼンテーションへの参加を行うことができた。

◇PTAの役員会、運営委員会に管理職が参加したほか、各学年委員会との連携を進めることができた。

◇青少対クリーン活動、夜間パトロールへ一部の教員が参加し、保護者・地域との交流を行うことができた。

◇部活動改革について、保護者アンケートをはじめ、第三地区スポーツクラブとの協力体制を協議するなど、改革を進めることができた。

(2) 三小との小中一貫教育の充実・発展

①教科の授業はもとより、部活動体験、授業体験など、一貫教育の機会の拡充と充実を図る。

◇年3回の小中一貫の日では、テーマによる分科会を小中の教員で作り、9年間の指導のあり方について協議することができた。

◇今年度は、情報教育について9年間を見通した指導のあり方を作成することができた。

◇三小の夏季補習教室や、放課後子ども教室に中学生がボランティアとして参加することができた。

◇ティーチャーズネットについては、国語科、理科、美術科、英語科にて、中学校の教員が小学校で授業を行うことに取り組んだ。

◆部活動改革を受けて、部活動体験のあり方について検討し、新たな形での実施を提案する。

(3) グローバル人材の育成

①ヨコタミドルスクールとの交流、TGGでの体験活動を核として、豊かな国際感覚を醸成し、世界の多様性を受け入れる力を身に付けさせる教育を推進する。

◇3年生によるTGG立川への訪問を6月26日に実施した。

◇留学生が先生については、事業の停止に伴い、東京学芸大学の協力を得て、留学生の話を聞く会を実施した。

◇ヨコタミドルスクールの生徒が本校を訪問し、直接交流する活動を1, 2年生において2月7日(金)に実施した。

◆ヨコタミドルスクールとの交流については、意義は十分にあるものの、先方の事情もあり、年度ごとに内容を協議して実施せざるを得ない。

(4) キャリア教育の推進

- ①進路通信の全学年への配布を実施した。
 - ②2年生の高校の先生による授業体験を行った。
 - ③2年生職場体験を事業所の協力を得て、昨年度より1日増やし、3日間の体験活動を実施することができた。
- (参考指標) 学校評価(保護者) 学校は、生徒の将来の進路や生き方についての指導に取り組んでいる。
肯定：78.4%
- 学校評価(生徒) 学校は、生徒の将来の進路や生き方についての指導に取り組んでいる。
肯定：89.4%

(5) 学校に登校できない生徒への支援の推進

- ①保護者・本人と連携しながら、教室に入ることが難しい生徒への別室での指導を行い、サポートを行う。
 - ◇年間を通して、別室指導を利用する生徒がおり、支援員を中心とした支援を行うことができた。
 - ◆別室指導のあり方については、個々の生徒への対応が中心となってしまう、学校としてのあり方を再度検討し、共有する必要がある。
 - ◆保護者と別室指導のあり方について協議し、確認することが定期的に必要である。
- ②管理職、学年担当教員、不登校対応教員、別室指導支援員と支援会議を行い、保護者との連携の上、当該生徒への支援のあり方を検討する。
 - ◇毎週月曜日5校時に不登校対策委員会を行うことができた。
 - ◇SSWとの連携を進め、定期的に支援を行うことができた。
 - ◆不登校状況がなかなか改善されない状況もあり、新たに不登校の状況になる生徒もいるなど、依然として厳しい状況がみられる。
- ③将来に向けた進路への支援を行うとともに、中学校卒業の進路については、多様な道があり、自己実現に向けて継続した取組が行われるように関係機関との連携を行う。
 - ◇3年生については、4月からの進学先についてどの生徒も進路選択を行うことができた。
 - ◇SSWとの連携と支援の中で、進路選択を実現できた生徒もあり、関係機関との連携が進んだ。

3 その他

(1) 各教職員が自らの全力を発揮できる環境づくり

- ①管理職・分掌主任・学年主任等のリーダーシップによる組織体制の構築と組織力の向上
- ②管理職・分掌主任・学年主任等への報告・連絡・相談の徹底
- ③文書起案と決裁の徹底による学校としての意思決定の明確化
- ④全教職員の担当職務への当事者意識と進行管理・情報管理・健康管理への意識高揚
- ⑤労働安全衛生及び働き方改革に対する意識改革と取組の推進
 - 水曜日の定時退勤日等による心と体の健康管理促進
 - ◇各分掌、学年等が組織的に対応し、企画運営をすることができた。
 - ◆勤務時間を大幅に超過する教員もあり、働き方改革が進んでいない。

(2) 服務厳正の徹底、教育公務員としての使命・誇りの自覚

- ①教育公務員としての自覚ある行動(服務規律の厳守・学校教育への信頼確保等)
 - 地方公務員法をはじめとする法令等の遵守及び、生徒の安心・安全を第一とした教育活動の徹底
 - 全体の奉仕者、さらに社会人としての自覚をもった常識・良識ある言動
 - ◆生徒に対する不適切な指導に当たる件があった。あらためて服務についての確認を行うとともに教育公務員としての自覚と、生徒を指導・育成する立場としての意識を高める。

◇ほぼ達成できたこと。◆不十分なこと、次年度への課題